シリーズ ふるさと再発見

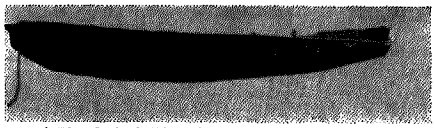
ふるさと岩室は、遠い昔からさまざまな歴史を生み出してきました。そのふるさとの歴史を一つ一つ紹介していくページです。

その20

時代とともに変る生活環境

■今月の「ふるさと再発見」シリーズ第二十回目の今回は、明治初期頃から活発化してきた蠶産業の発達にともない、少しずつ変ってきた村民の生活ぶりなどについてご紹介しましょう。

●川舟の利用　西川・矢川にかこまれた岩室地方は、河川を利用しての川舟がさかんに利用されていました。当時の川舟(写真)は、西川・矢川筋を通行する運輸用のものと洪水・湛水のための農耕用・災害用のものの二種類があり、貴重な交通機関として新潟方面への連絡にもさかんに使用されていました。



▲当時、水上交通の中心だった"川舟"。

▲農耕用として利用されていた"田舟"。

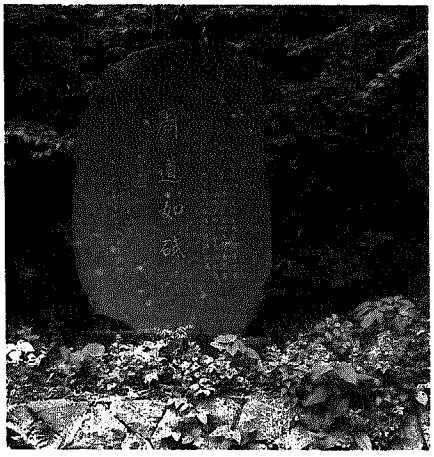
しかし、明治末期～大正期にかけて道路整備や鉄道整備が進むと、川舟の利用頻度も少なくなり、明治後期ころからは次第に農作業用のものだけになっていきました。

●駅伝組合　明治前半期まだ陸上交通が未発達なとき、各地に公用連絡、物資運搬等に共同で人馬を集め、通達・交通の便をはかっていました。そして、明治十八年、三大区(現在の西蒲原郡の一部)の人馬継立による交通機関は、弥彦村など近在四十一か村(岩室地区各村もすべて加入)の営業希望者による民間の弥彦駅伝営業組合へと変り、「行旅ノ便益、運輸、交通ノ便」を図ることを目的に駅伝組合員により運営されることになりました。この駅伝組合は、交通・運輸制度の未熟な明治前期ころは、かなり高い値段であったようですが、非常に繁昌し、多くの農民も副業的に参加していましたが、明治二十年以降交通制度が発達するにつれて、次第に衰退していきました。

●郵便・電話の普及

郵便制度は、明治六年巻、燕、明治七年吉田、曽根、三十四年和納、三十六年間瀬、三十七年峯岡に郵便局が開設され、遂次広まっていきました。また電話も、四十二年に巻、四十四年には曽根に架設され、そして村内の各事務役、役場などにも姿をみせはじめました。

●鉄道の開通　鉄道の敷設については、明治四十四年十月、安田善次郎(安田財閥の創始者)によって越後鉄道会社が設立され、その結果、大正元年八月白山～西吉田間が開通し、さらに同年二月には西吉田～柏崎間が開通し越後鉄道が完成しました。当時の駅は、白山～内野～曽根～巻～和納～西吉田などで、現在の駅がこのとき完成しました。これと前後して、北越鉄道、信越鉄道も敷設され、これらの鉄道開通により岩室地区も鉄道の恩恵をうけるようになりました。



▲明治45年に建立された間瀬線開道記念碑

●道路網の整備　明治九年九月出版の「新潟県官民必携」によれば、岩室地方には一等道路(弥彦～竹野町～赤塚～内野～新潟線)が石瀬・岩室を貫通していました。この道路は、同十二年十月の布達により国道一等に編入され、また三等道路(和納～吉田線)が和納近在を貫通し、これものちに県道三等道路に編入されました。それと、その頃から村内各地に里道がつくられはじめ、ほぼ現在の道路体系ができあがったようです。

また、当時道路問題でもっとも関心をもち進められたのが、間瀬～岩室線の県道編入運動でした。同線を県道へ編入することにより、間瀬地区の生活向上はもちろんのこと間瀬港を利用した貨物運輸による地域経済の発展が期待できると、県に対して幾度となく請願、建議されましたがなかなか認められず、結局明治三十三年に起工が決定、同年改修竣工。その後、昭和期に入り、間瀬随道も完成し現在の間瀬線が完成しました。

(詳しくは岩室村史をご覧ください)

JR越後線の集中保守作業に伴う
列車の一部運休及び踏切の交通止めについてのお知らせ

JRでは、**今月21日～25日**までの間、越後線吉田～越後曽根間の集中的保守作業を予定しており、それに伴いデイタイム(通勤、通学時間帯を除く)の一部列車の**区間運休**と踏切の**交通止め**(幹線道踏切を除く)が行われますので、皆様のご協力をお願いします。なお、同期間中の列車運休に伴い、バスによる代行輸送が予定されていますので、駅頭チラシまたは後日配布されますチラシ等ご覧のうえご利用ください。

6月9日皇太子さまご結婚の儀に伴い、役場及び出先機関の業務を休ませていただきます

今月9日に行われます皇太子徳仁親王「ご結婚の儀」に伴い、当日は休日となりますので、役場及び出先機関の業務を休ませていただきます。なお、当日は公民館(村民体育館、間瀬地区公民館)及び静閑荘は平常どおりご利用できます。

また婚姻・出生・死亡届などの受付や埋火葬許可証の発行は行いますのでご利用ください。

■広報いわむろ 第三七四号 平成五年(一九九三年) 六月一日発行(毎月一回一日発行) ■発行 岩室村役場 ■編集 総務課 ■新潟県西蒲原郡岩室村大字西中八六〇(〒九五三―〇一) ■☎〇二五六―八二―四一一一(代) ■印刷 北洋印刷(株)